

ば、根くさり出来過る事も有、専ら灰ごへを以て植べし、温氣を好み、底の土をあげて作る事を好て、高きかわきて、輕き土に宜しからず、春にもなりて修理の遅は、實りよからず、其上麥穗に出で、實る時分地の堅く引しむる事を好て、根の土乾うつけたるを嫌ふ物也、小麥取わけ念を入種をゑらぶべし、種惡しければ出兼るもの也、まじりなく實りよき夏の土用に能干、糞虫くひをよく去べし、是又種二三色有物也、能々土地の相應を撰て作るべし、又風烈しき所には、種もからも強く、實の落ざるを撰て作るべし、又云、麥を蒔地は、かりそめにもまめり氣のつよき時は、耕し蒔べからず、當年地かたまりて、麥の盛長あしきのみならず、來年の稻迄出来よからず、但小麥は少まめり氣の時蒔たるは實り吉、又小麥跡田瘠るもの也、田に小麥を作る事は所によりて遠慮すべし、小麥のから田に入は毒なる故也、かぶをも土きはよりつめて刈、耙にてかく時、田に有麥かぶもかきさるべし、總じて小麥は大麥よりこへ少分入、第一灰ごべよし、石川郡にて松任近邊は小麥の上也、

〔百姓囊〕^五農人の諺に、夜さむ麥吉といふは、大寒の時分より正月の末二月の初頃まで、寒強く霜よなく、をきて、さのみ雨多からぬをいふなるべし、春早く暖に成ぬれば、麥苗長じすぎて、實入すくなし、初春晴霜多きときは、麥根土中に伏藏して精氣強く、仲春の暖氣に遇て、莖葉長成し、穗粒堅實なるをいへり、

〔百姓傳記〕^十ワセ麥種色々アリ、三月穗、ナカボロワセ、六角、ハダカ麥、マタ中手麥種色々アリ、オク麥種猶以様々有、其數書ツグシガタシ、略 中

一麥種ヲホトボシ蒔コト秘事ナリ、水カ小便ニ油ヲサシ、種麥ヲソレニテガシ、一日二日宛俵トナシテ置、フクレタルヲマクニ生出ヨシ、ソダチ強ク、實入ヨシ、水一升ノウチへ、油一二合入、又小便モ入、麥種ニ應ジテ多少有ベシ、麥粒フクレシメリヲ持蒔ヨクモアリテ生出モ阜シ、地ノカワ